

令和元年度第1回学校関係者評価委員会（学校評議員会）のまとめ

1 開催日

令和元年6月7日（金）午後2時00分～午後3時30分

2 場所

熱田高等学校応接室ほか

3 出席者（敬称略）

評議員

名古屋学院大学学長 小林 甲一
名古屋市立宮中学校長 西尾 理恵
千年自治会 小出 邦雄
PTA顧問（前PTA会長）大平 美奈
熱田高等学校同窓会副会長 小倉美津夫

教職員

校長 三好博輝 教頭 鈴木達也 教頭 清水貴子 教頭（定時制）渡辺喜長 事務長 森清司

4 当日の主な内容

学校の近況報告の後、授業と校内施設を見ていただきました。その後、意見交換が行われ、貴重な御意見をいただきました。

5 評議員からのご意見等

○熱田高校の印象

- ・全体的に和やかな雰囲気、のびのびした校風を感じる。

○授業内容・学習環境についての感想

- ・元気がよく、生徒への目配りもされており、意欲が感じられる先生が多かった。
- ・黒板を用いた板書の授業が大半だった。大学では、現在は2/3がパワーポイントを用いて授業を行っている。また、小・中学校においてもタブレットを用いた先進的な取組をしている学校も多く、高校はかなり遅れている。高大接続が重要視されているが、格差がありすぎる。
- ・（授業で使えるプロジェクターの数が不足している現状に対して）県の教育予算が少なく厳しい状況であるが、最近では、プロジェクターも小型でかなり安いものが出回っているので、なんとか整備できないか。
- ・パワーポイントはあくまでも手法であり、提供の仕方の一つ。教育はマンネリ化しやすいので、授業改善につながるが、使い過ぎの危険性もある。
- ・生徒用ロッカーやプロジェクター等、生徒にとって必要なものである。使用用途をきちんと説明し、PTA会費で購入することを検討してはどうか。
- ・これからは、教員からの一方通行でなく、生徒自身に考えさせ、生徒が主体になる授業が求められる。アクティブ・ラーニングの手法も取り入れ、これまでの授業の在り方をいかに改善していくかを、教員が考える必要がある。